

11. 食材性昆虫・木質依存性昆虫・木材穿孔性昆虫の いろいろ

食材性昆虫・木質依存性昆虫・木材穿孔性昆虫は、昆虫の様々な分類群に散見される。ここではそれら分類群の主要なものを列挙する。各科名の末尾には角括弧 [] 内に、それに属する種の食性・生態・等の類型・性格付けについて、上述 (5.) の性格付け・類型分け略号を用いて可能な範囲で示した。ここで、丸括弧 () 内に記したものは、一部の種にのみ該当することを示す。また2つ(またはそれ以上)の性格付けのいずれが妥当かが不明または不明確な場合、あるいは種によって異なる場合は、これらを or で結合して示した。記号のない項目は該当する類型がないか、もしくは不明の場合を示す。

11.1. ゴキブリ目 Blattaria (シロアリ下目 Isoptera を除く)

次項シロアリ下目と本項が共通の祖先を有することは定説であるが、両者間の最大の違いは、前者では真社会性がまったく見られない点である。食材性昆虫の代表格である次項シロアリ下目を包括する本目は、それゆえ食材性のものが若干見られる。ここでは、歴史的かつ応用昆虫学的に別扱いが適切と考え、別亜項とした。

- オオゴキブリ科 Blaberidae・キゴキブリ科 Cryptocercidae [A₃/B₃/C₂ or C₃/N₁ or N₂/R₂₋₁/R₃₋₁₋₁ or R₃₋₂₋₁/R₃₋₁₋₂/S₁ or S₂/E₂/H₂]

これら2科オオゴキブリ科とキゴキブリ科はシロアリと生理・生態の共通点が多く、本格的食材性昆虫として、自前もしくは共生原生生物由来のセルラーゼも機能している (Cleveland *et al.*, 1934; J. Zhang *et al.*, 1993; Scrivener *et al.*, 1998)。このうちキゴキブリ下目(キゴキブリ科-キゴキブリ属 *Cryptocercus*) がシロアリと系統的に最も近い関係にある姉妹群とされ (Lo *et al.*, 2000; Krishna *et al.*, 2013; 他), シロアリとの間で様々な生理学的・発生学的・生態学的比較がなされてきた (Nalepa, 2010; 他)。ただしシロアリ類とキゴキブリ属の直接の類縁性にはかつて異論も出され (この点は Shellman-Reeve (1997) の総説を参照されたい), 両者をひとくくりには流石に抵抗が見られた。形態によるゴキブリ目の系統解析は Grandcolas (1996) や Klass & Meier (2006) が試みているが、ここではキゴキブリ科 Cryptocercidae はムカシゴキブリ科 Polyphagidae に含まれるかこれに近縁とされ、これはオオゴキブリ科 Blaberidae とは相当離れた系統位置で、後者よりも古い形質のグループとされ、これより祖先的なのがクロゴキブリ、ワモンゴキブリ、ヤマトゴキブリなどのおなじみの種を含むゴキブリ科 Blattidae とされている。というわけで、キゴキブリ科 Cryptocercidae は次項シロアリ類(ゴキブリ目-シロアリ下目)と合体して一系統を形成し、これがゴキブリ目の系統樹の中に深くはまり込むことはゆるぎない事実となっている。